平成 29 年　6月　6日

研修報告書

氏名：中島　貴美

所属：産業医科大学病院　総合周産期母子医療センター

研修期間：平成　28　年　4　月　1　日　～　平成　29　年　3　月　31　日

研修場所：京都大学病院　遺伝子診療部

受講動機：

NIPTが学会で話題になっていた時期に学外の出生前診断セミナーに参加したことが今回受講のきっかけでした。その後、日々の診療の中で、羊水検査の結果説明の仕方や、遺伝性血液疾患を持つ母体に対して胎児や分娩のリスクをどうやって説明するのがいいか考える機会もありました。当時は院内で遺伝カウンセリングに触れる機会が少なかったため、一度きちんと学びたいと思い、思い切ってNGSDコースに志願しました。

動機は周産期分野でしたが、学会・セミナーに参加して、婦人科分野では遺伝性腫瘍、生活習慣病などの健康リスクにも遺伝要因が大きく関与していることを知りました。

どの診療科でも遺伝学の知識と遺伝カウンセリングは必須と考え、京都大学病院での受講を希望しました。

研修内容：

4月～7月　系統講義（大学院授業を受講）

8月～　院内遺伝カウンセリング陪席（4症例･･･乳がん、乳がん、小児の難聴、FAP）

9月～　大学院生ロールプレイ実習に参加

年間を通じて、合同カンファレンス参加（隔週金曜）

研修成果：

遺伝学を系統的に学ぶことができ、遺伝診療に関わる医師だけでなく認定遺伝カウンセラーコースの大学院生と接する機会も多くあり刺激になりました。

これまでは産婦人科の視野でしか考えることができませんでしたが、小児科・神経内科疾患、実際に陪席した症例では小児の遺伝性難聴を疑う場合のカウンセリングに関わることができ、患者家族への説明の仕方は勉強になりました。

ロールプレイではコミュニケーションの取り方についても意見が飛び交い、遺伝カウンセリングだけでなく普段の面談の参考にもなりました。その疾患について一義的に説明するのではなく、クライアントは何が心配で来院したのか、その人にとって必要な情報は何か、限りあるカウンセリング時間内で必要なことをきちんと伝えるということは、改めてとても勉強になりました。普段の診療・面談でも重要なことだと思います。

その他（感想・要望・反省点、等）：

年度の下半期には院内遺伝カウンセリングに陪席させてもらいましたが、実際は自分の都合を合わせることが難しいため陪席した症例数が少なく、「遺伝学的検査説明→結果説明→その後のフォロー」という経過を追って関わることもできませんでした。また、NGSDコース在籍中は一般臨床から離れていたため実際に自分が主で関わる症例がなく、実感を持って学ぶことができなかったのはもったいなかったです。

全くの学外からの参加で最初は不安でしたが、先生方、認定遺伝カウンセラーの方々には丁寧にご指導を頂きました。臨床を「遺伝」という視点から見ることができ、自分の視野が広がったことは大きな収穫でした。ありがとうございました。